

## 第 2 回大船渡市災害復興計画策定委員会専門部会開催結果概要

開催日：平成 23 年 7 月 16 日（土）

開催会場：大船渡市役所

開催部会：市民生活部会、産業経済部会、都市基盤部会及び防災まちづくり部会

参加者数：市民生活部会 22 人、産業経済部会 17 人、都市基盤部会 16 人

防災まちづくり部会 22 人、（協力）岩手県立大学：ファシリテーター等 10 人、学生 8 人

### 内 容

復興計画事業一覧（案）をもとに、ワークショップ形式で以下について意見を交換し、検討した。

- ・ 復興計画に登載する事業メニュー

### 市民生活部会

骨子内容	事業メニューに関する意見
被災者の早期の住宅再建を支援するほか、地域コミュニティの維持・形成に配慮した、安全な生活環境を確保します。	
ア 被災者の事情に十分配慮しながら、個人住宅再建のための支援を行います。	住宅建設用地の確保・再建可能性の早期明示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期の住宅用地確保・情報提供</li> <li>・ 以前の土地に建設していかどうかの早期の基準の明確化</li> </ul> 仮設住宅の住民意向の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮設住宅に入っている人々が、将来家をどうするかを把握すべき</li> </ul>
イ 住宅の自主再建が困難な方のために、公営住宅を整備します。	公営住宅の早期確保・情報伝達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公営住宅建設場所の早期伝達</li> <li>・ 住宅、公営住宅の早期建設</li> </ul> 高齢者への配慮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 階段がづらいので、将来を見すえた整備が必要</li> </ul>
ウ 住宅の高台移転や宅地のかさ上げなどにより、津波などの災害にあわない安全な居住環境を整えます。	高台での災害対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高台移転後に想定される災害への対応</li> <li>・ 自然の脅威をさけて共存する方法</li> </ul> 被災者意向の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災者のニーズをきめ細かく把握する必要あり</li> </ul> 高台利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五葉山麓の利用（園芸団地の開拓）</li> </ul> 建築物の構造面での対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一階は駐車場、水の逃げ道にする</li> </ul>
エ 住宅移転（市内）希望者への支援を行います。	
オ 新たな居住環境において、人と地域のつながりが保てるよう配慮します。	仮設住宅でのコミュニティ確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間づくりが課題、新しい関係づくりが必要</li> <li>・ 仮設住宅の行政区の決め方には留意が必要（行政区との調整）</li> <li>・ 仮設住宅・居住者の交流、相談体制の整備（場所の確保）、中高年の集い、娯楽施設等の復旧</li> <li>・ 最初の段階（入居説明会等）で名簿作成</li> <li>・ 仮設住宅に新しく入居した人たちとの繋がりをだれがどのようにリードしていくか</li> <li>・ 仮設住宅周辺の環境の整備が必要（商店など）</li> <li>・ 公園に建てられた仮設は、仮設の人たちでこみ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>の処理、草刈り 交流の一部に</li> <li>仮設住宅入居者以外の住民への目配りを密に</li> <li>住宅再建後のコミュニティ確保</li> <li>移転後のコミュニティ形成</li> <li>従来コミュニティの人々との交流</li> <li>住民同士が触れ合える環境づくり（縁側、話し合いの場合）</li> <li>青年部・女性部の設立</li> <li>公民館と自治会を融合し、組織再編と機能強化</li> <li>地区懇談会の開催</li> <li>地域外から来た人を地域にどのように溶け込ませられるか</li> <li>店、サロン、集会所ほしいが、負担費用が問題</li> <li>適正規模を越える行政区の調整が必要</li> <li>「安心」を感じる住民関係づくり、政策</li> <li>地区より小さい単位のコミュニティづくり</li> </ul>
<b>【その他】</b>	避難所への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所によりアンバランスな情報や支援の改善</li> </ul>
<b>市民が安心して暮らせるよう保健、医療、介護、福祉など生活に密接に関係する各種サービスの充実を図ります。</b>	
<b>ア 被災者の心と体のケア対策を実施します。</b>	心の現状把握・ケア <ul style="list-style-type: none"> <li>人の心の状態把握</li> <li>笑顔・夢を与えることで心のケアを</li> <li>仮設住宅入居者への対応</li> <li>孤独死の防止</li> <li>仮設住宅に関する専門的な検討会必要</li> <li>仮設住宅周辺に気軽に相談できる専門家配置</li> </ul>
<b>イ 被災した保健・医療・介護・福祉施設を早期に復旧します。</b>	医療・福祉施設の安全な場所への設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療施設関係は高台移設、又は各地域へ分散</li> <li>介護施設を優先的に津波から避けられる場所に</li> </ul>
<b>ウ 地域医療を充実します。</b>	コミュニティ単位での医療・福祉施設の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ形成の中に医療・福祉施設を</li> </ul>
<b>エ 地域全体で高齢者や障がい者、子どもたちを支え合うやさしいまちづくりに取り組みます。</b>	少子高齢化への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化への対応、医療福祉の確保</li> </ul>
<b>【その他】</b>	
<b>災害廃棄物を適正に処理します。</b>	
<b>ア 大規模災害時に大量発生した各種の廃棄物を迅速に処理します。</b>	
<b>イ ガレキについては、市内企業などにおいて処理し、処理後に発生する灰などもできるかぎり有効活用します。</b>	災害廃棄物の有効利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>ガレキの中のコンクリート類は、地盤改良や嵩上げの材料として活用</li> </ul>
<b>【その他】</b>	
<b>被災した教育施設の再建などにより、教育機会の確保を図ります。</b>	
<b>ア 災害に強い教育施設を整備します。</b>	学校等の整備・コミュニティ機能の保持 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育・学校教育施設の移設</li> <li>学校を地域コミュニティ機能を併せ持つような施設に（高齢者の生きがい、児童の思いやり）</li> <li>学校を早めに落ち着け、学校中心の復興</li> </ul>
<b>イ 被災した児童生徒などが、安心して就学できる環境を整えます。</b>	通学・コミュニティ支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の通学支援（バス賃無料化）</li> <li>通学路の見回り</li> <li>子供を考えた政策（通学路管理、将来性）</li> <li>子供が苦手な住民との関係維持</li> <li>校庭・運動場の確保</li> <li>校庭等運動場の再開・提供</li> </ul>
<b>ウ 生涯学習環境を充実します。</b>	

エ 各種スポーツを推進します。	
【その他】	
市民共有の財産である歴史・文化資源を活用して、うるおいと安らぎをつくりだします。	
ア 歴史・文化資源の継承・普及活動に取り組みます。	歴史・文化資源の掘り起こし 化石とジオパーク開発（住民・地域の参加）
【その他】	
～ 以外の意見	<p><b>復興計画全般</b></p> <p>復興計画のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来あるべき姿に向け着実な前進、取組が必要</li> <li>・ 机上ではなく市民の意見を十分知ることが重要</li> <li>・ 現場・市民意識の把握（子供の声、声なき声）</li> <li>・ 市役所の皆さんと一緒に市について考えるべき</li> <li>・ 若い人々が希望を持てるように</li> <li>・ 懇談会はごく一部の人々の声でしかない</li> <li>・ 被災していない地域の復興への取り入れ</li> <li>・ 全住民を被災者として扱った包括的な政策</li> <li>・ マイナス状態からゼロの状態にするのがまず</li> <li>・ 先、それから夢のある復興プランへ</li> <li>・ 未来の人たちのための理想と今の住民の生活もどちらも大事（分けるのも必要では）</li> <li>・ スピード感大事だが、行動計画の順序（優先順位）も大事にすべき</li> <li>・ 人、物、金を確保</li> <li>・ 国の「特区」の活用</li> <li>・ 費用の使い方を柔軟に</li> </ul> <p>復興のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働く場所、観光も含め、住民が豊かな気持ちになれるような復興へ</li> </ul> <p>市民の意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災者の自立意識改革、支援</li> <li>・ 市民のやる気底上げ、モチベーション維持</li> <li>・ まちづくりに関する市民の意識の改変が必要</li> </ul> <p>周辺市町村の考慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸地域の合併</li> </ul> <p><b>産業・経済関連</b></p> <p>企業・雇用の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 失業保険のあり方（被災した会社の為にガレキ撤去したいが、監査などペナルティの可能性がありできない。行政はどちらの立場か）</li> <li>・ 義援金を貸付して運用する（企業や団体に）</li> <li>・ 会社への経済支援、雇用促進</li> </ul> <p>観光の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温泉などの観光業をあわせながら開発</li> <li>・ 海の駅づくり</li> <li>・ 五葉山麓の温泉などを利用して観光へ</li> </ul> <p><b>都市基盤関連</b></p> <p>生活の足の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が多い日頃市の足の確保</li> <li>・ 災害弱者のためのコミュニティバス</li> <li>・ 少子高齢化に対し、鉄道等交通の足の確保</li> </ul> <p>景観の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一定のルールに基づいた景観の整備</li> </ul> <p>土地利用のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災跡地の有効利用（緑地化、公園化）</li> </ul> <p>情報通信基盤の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区毎の連絡設備復旧・全員に繋がる連絡網</li> </ul>

	<p><b>防災まちづくり関連</b></p> <p>防災教育の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災に係る教育内容の設定が必要</li> <li>・ 地域コミュニティを盛り込んだ施設（特に学校）等で今回の経験をしっかりと伝えることが重要</li> <li>・ 学校のそばに復興記念（メモリアル公園など）</li> </ul> <p>ライフライン等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設、電力、水道、連絡拠点を高台に移転</li> <li>・ 緊急時の電気・水道・連絡網の確保</li> <li>・ 防災拠点の設定・強化</li> </ul> <p>放射線の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚・海等の放射線管理</li> </ul> <p>災害時の応援・サポート体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続したボランティア活動づくり</li> <li>・ 有償ボランティア導入</li> <li>・ 復興計画は陸前高田市も含めて 消防の広域化</li> </ul>
--	--

産業経済部会

骨子内容	事業メニューに関する意見
経済活動の早期再建を支援し、雇用の確保を図ります。	
ア 仮設の工場や事務所の整備などにより、被災企業などの早期の事業再開を支援します。	職場復帰の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元の職場に早く戻れるように支援してほしい</li> <li>・ 働く人がいて、場所があってこそ商店街が活かされるため、その流れをまずは取り戻す</li> </ul>
イ 雇用環境を改善し、雇用の維持と創出を図ります。	雇用保険の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雇用保険について求職者の啓蒙を行う</li> <li>雇用確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口流出をおさえる</li> </ul> </li> </ul>
ウ 被災者の復興関連事業への雇用を促します。	
エ 既存の借入金と新たな借入金による二重ローンの軽減について、関係機関に働きかけます。	二重ローン対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二重ローン問題への対応</li> <li>・ 市が国に援助要請をしてはいるが困難であるため、銀行等により被災者を支援できないか</li> </ul>
【その他】	助成の充実・保険の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震保険の活用</li> <li>・ 津波被害への助成を充実させてほしい</li> <li>・ 借家の大家への補償制度がない</li> </ul>
産業基盤を再建します。	
ア 被災した各種産業の生産基盤などを早期に復旧します。	水産業の事務所整備・海岸部等の地盤沈下対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸部の整備（水産業などの事務所の本設、嵩上げ・盛り土）</li> <li>・ 地盤沈下への対応（どうやって土地を上げるか）</li> <li>・ 津波を想定した建築を。壁が多い建物は、地震に強く津波に弱い。地震には保険があり、津波にはない</li> <li>大船渡港の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾（大船渡 釜山便）がある利点を活かす</li> </ul> </li> </ul>
イ 基盤整備にあたっては、建築物の構造強化や電源対策の推進など、防災機能の向上に配慮するほか、重要施設などへの重点・優先投資を行います。	土地利用と産業基盤整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの土地利用（漁業施設を海の近く）ではない発想も必要</li> <li>・ 陸地側に水産加工工場を立地させて、早期に雇用確保できるようなしくみが必要</li> <li>・ 被災地域の商業（漁業 etc）は山の方には逃げられないため、海岸部整備も欠かせない</li> </ul>
【その他】	
水産業の早期再建を図ります。	
ア 漁船や養殖施設の共有・共用化、漁業の共同経営化などに対する支援を行います。	水産業関連施設（建物）の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共有スペース（養殖施設）とその整備、機械の管理はあるが、建物自体の整備も復興計画に</li> <li>・ 機械の保存庫などの建物について盛り込む</li> </ul>
イ 新しい大船渡魚市場を早期に整備します。	魚市場とアクセス道の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きい魚市場があればよい</li> <li>・ 市場に直接つながる道路を</li> </ul>
ウ 漁業協同組合の経営安定化を図ります。	
エ 地域特産水産物のPRや地産地消の取り組みを進めます。	集客施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚市場の周辺に見学できる施設の建設（ミニ水産博物館）</li> <li>・ 市場敷地内に観光者たちが使える物販施設、さらには2階に休憩所を</li> <li>・ 海産物、釣りなど海を感じられる場所を</li> </ul>
オ 水産関連施設の防災機能の向上を図るほか、集約化などにより効果的に整備します。	水産加工工場の内陸側への設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水産加工工場を陸地側に整備する</li> <li>台風・津波に備えた漁港の早急な整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風や津波に備えるためにも漁港の早急な整備</li> </ul> </li> </ul>

	<p>が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁港整備には時間がかかるので仮整備を</li> </ul>
<b>カ 持続可能な水産業の仕組みを模索します。</b>	
<b>【その他】</b>	<p>水産物加工・流通の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業の中でも加工流通の停滞は著しく、海岸線の復旧を早く</li> <li>・ 漁船に乗ってくる人の支援</li> <li>・ 漁船に乗っている人が使用する風呂、コインランドリー、飲み屋街が必要</li> </ul>
<b>農林業のあり方を検討し、振興策を見出します。</b>	
<b>ア 遊休農地の有効利用を踏まえながら、被災した農地などを早期に復旧します。</b>	<p>園芸施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地を施設園芸などの団地として整備し雇用創出を</li> </ul>
<b>イ 地産地消の取り組みを進めるなど、農林業振興を図ります。</b>	<p>農業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しいたけが金額ベースでは最も大きく、産業の再生を図る</li> <li>・ 岩手県では温暖な気候なので花栽培に適した温暖な気候なので産業を支援する</li> <li>・ 規格外しいたけの処分(利用)方法</li> </ul>
<b>【その他】</b>	<p>水産業と農業の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さんまの宅配便の中に大根を入れてコラボを図る。海とのコラボ。</li> <li>・ 稲作の効率化</li> <li>・ 水田の復旧、面積を同じに（効率性、機械でやりやすく）</li> </ul>
<b>商業の早期再建を図ります。</b>	
<b>ア 仮店舗や共同店舗の整備などにより、早期の事業再開を支援します。</b>	<p>仮設店舗の早期開設・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮設店舗の土地の選定</li> <li>・ 仮設店舗の早期開設</li> <li>・ 仮設店舗について、資本は国が支援、取り壊しは市であるが、管理は誰がするか</li> <li>・ 仮設住宅内に仮設スーパーがほしい</li> <li>・ 仮設店舗を壊すのは市だが、コストは大丈夫か</li> <li>・ 移動販売車、買い物代行サービスならすぐに来るので、やり方を市と検討</li> <li>・ 半壊した店舗や移設などへの支援</li> <li>・ 半壊した店舗への補助</li> <li>・ 店舗を移設する人への補助なし</li> <li>・ 物件もあるしやる気も十分にあるが、必要な経費(ローンなど)があるために実現できないため、助成金が必要</li> </ul>
<b>イ 被災した商店街については、防災機能や利便性の向上などを考慮して再整備されるよう支援します。</b>	<p>商業拠点となる高層ビルの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業などの拠点となるような高層ビルの整備</li> </ul>
<b>【その他】</b>	
<b>観光産業の早期再建を図ります。</b>	
<b>ア 被災した観光資源・施設を復旧します。</b>	
<b>イ 観光関連イベントを復活するほか、復興に係るキャンペーンを実施します。</b>	<p>ボランティア等の誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアは10年後観光に来るので、道路整備が必要</li> <li>・ ボランティアツアーだけでなく、一般向けツアーの復活も必要</li> </ul>
<b>ウ 農漁業体験などによる新たな観光振興を図ります。</b>	<p>水産に関する観光施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お魚センターを造り観光化できないか</li> </ul>
<b>エ 平泉の「世界文化遺産」登録や「ジオパーク」認定と連動した誘客活動を実施します。</b>	<p>ジオパーク・津波に関する観光</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジオパーク構想の実現 津波観光のPR</li> <li>・ 震災語り部事業（やり手、受け手のミスマッチがある）</li> </ul>

<p><b>【その他】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波の傷跡を見せる、復興過程を見せる</li> <li>観光・宿泊施設や基盤の充実</li> <li>・ 観光における宿泊場所が必要</li> <li>復興をアピールする観光</li> <li>・ 復興による活気をアピール</li> <li>・ これまでと違う大船渡を造り出すことで新しい観光へ</li> <li>名物づくり</li> <li>・ 海産物を活かした名物づくり（身近なもの、低コスト、長期でできるもの）</li> <li>・ どの店でも作れ、なおかつ大船渡の特産品を使った継続性のある商品を</li> </ul>
<p>地場産業の活力により、産業・経済を活性化します。</p>	
<p>ア 既存企業の再生を支援します。</p>	
<p>イ 地場産業の連携・高度化や新たな分野での起業などを支援します。</p>	<p>産業間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業間での連携が必要</li> <li>・ 水産・農産・林産・施設園芸がすべて揃っている地域なので、それを活かした産業を</li> <li>・ 水産・農業などの六次産業化を</li> <li>・ 観光に結びつけた産業を（農業：イチゴなど）</li> </ul>
<p>ウ 北里大学など関係機関との産学官連携の取り組みを推進します。</p>	
<p><b>【その他】</b></p>	
<p>～ 以外の意見</p>	<p><b>復興計画全般</b></p> <p>海の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活の中心は海であり、海の再生が一番重要</li> </ul> <p><b>市民生活関連</b></p> <p>助成の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮設、避難所以外に避難している人、受け入れ先への助成</li> </ul> <p><b>都市基盤関連</b></p> <p>買物の足の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店までの足がなく、買い物に行けない</li> <li>・ 買物バスの需要高い</li> </ul> <p>道路の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 45号と三陸縦貫自動車道の間にもう1本道路を</li> <li>・ 社会資本整備を早くしてほしい</li> <li>・ 救急搬送のための道路の常時開放</li> <li>・ 市内にはICが三つあり、病院近くのICが震災時に非常に役立った。災害時に活用できる道路の整備をするべき</li> <li>・ 居住区域と産業の両立のためには、山間部への移動はどうか、タイミングやスケジュールの明確化が必要</li> </ul> <p>土地利用計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは土地利用計画。完成図が見えないと、計画は進まない。</li> </ul> <p>JR等鉄道の再生について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大船渡の中心にJRは必要か。防災を考えると障害（踏切が降りて避難者足止め）となることも。利用率も微妙なので復興に疑問。盛町あたりまでいい。鉄道を堤防代わりに。そのまま修復よりも、必要なところに</li> <li>・ 高速的な鉄道を。</li> <li>・ 鉄道は今回を機に新たな路線をつなぐ</li> <li>・ 交通は様々な種類（選択肢）を用意するべき</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貨物線を仙台と結んでどうか。コンテナ事業を効率的に</li> </ul> <p>船の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船を使った輸送を深めるべき。湾口の整備</li> </ul> <p>防波堤・防潮堤の整備、嵩上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防波堤は高くても強度が足りない。形は凹より凸、受け流せるように</li> <li>・ 嵩上げはどれ位するか。千年に一度を想定するのか、中小の津波を想定するのか</li> <li>・ 海岸線だけを高くしても無駄。防潮堤と道路の機能の両立</li> </ul> <p><b>防災まちづくり関連</b></p> <p>津波からの避難についての啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波からの避難について、シミュレーションが足りない。昔の経験がいまの世代に伝わっていない</li> <li>・ 津波が来るまでの十数分間でやるべきことを自分でできるようにすべき。</li> </ul> <p>船舶の流失対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船が沈まないようにブイを浮かせる</li> </ul>
--	---

都市基盤部会

骨子内容	事業メニューに関する意見
<p>被災した都市基盤施設を早期に復旧するとともに、防災機能向上のために必要な整備を行います。</p>	
<p>ア 道路・河川、港湾施設などを復旧します。</p>	<p>優先順位の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復旧の優先順位を（例：亡くなった人の数）</li> </ul> <p>耐震強化岸壁の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震強化岸壁の施設</li> </ul> <p>河川維持補修の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水路を含めた河川維持補修の管理</li> </ul>
<p>イ 湾口防波堤については、湾内の水質環境に十分配慮のうえ復旧します。</p>	<p>耐震構造の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震構造強化材の利用（海路確保）</li> </ul> <p>湾口防波堤内の水質への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湾口防波堤内の水質管理を入念にする（汚染源の管理も）</li> </ul> <p>湾港防波堤は、海水が循環するように</p>
<p>ウ 地盤沈下状況などを十分考慮しながら、海岸保全施設を早期に復旧します。</p>	<p>海岸保全施設の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸保全設備の遠隔操作化、機能強化</li> <li>・ 浸水箇所を食い止める、満潮時の対応</li> </ul>
<p>エ 上水道・下水道を早期に復旧します。</p>	<p>津波に強い構造での整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波が入ってこない構造づくり</li> <li>・ 集落ごとに浄化槽を設置し緊急時の対応に備える（利用者分散）</li> </ul>
<p>オ 都市基盤施設の復旧・整備にあたっては、防災機能の向上に配慮するほか、広域幹線交通網の強化や防災拠点として有用な「道の駅」の適正配置など、重要施設などへの重点・優先投資を行います。</p>	<p>三陸縦貫自動車道への新たなIC設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三陸縦貫自動車道ICの位置の検討（アンケートなどで、大船渡病院近く、魚市場からのアクセス等）</li> </ul> <p>主要道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要道路を4車線に（広い道路が避難に有効）</li> <li>・ トンネルの活用を</li> <li>・ 道路をネットワーク上に整備（市道も含め）</li> <li>・ 道路などの舗装材に工夫を（透水性や排水性）</li> <li>・ 魚市場前の道路をトラックが通りやすいように</li> <li>・ 平泉と三陸をつなぐ通路を（自転車や観光）</li> </ul> <p>避難道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難専用道路の複数設置</li> <li>・ 低地から高台への道路設置</li> </ul>
<p>カ 道路を盛土構造とすることなどについて、防災上の効果を十分検討したうえで整備を図るほか、災害時に集落が孤立しないよう代替路線を整備・確保します。</p>	<p>道路と住宅との取り合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅との地上高差をどうするか</li> </ul> <p>道路整備位置・高さの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤崎 長崎の間は海沿いでなく高台に道路を</li> <li>・ 末崎町 大船渡町間を直接トンネルで</li> <li>・ 大船渡病院から北小学校の裏を抜けて、明神前に出て、下船渡までつづく道路の設置</li> <li>・ 佐野橋～田茂山の道路嵩上げ（陸上防波堤）</li> <li>・ 国道・県道を浸水域よりも高く嵩上げ</li> <li>・ 45号と平行する幹線道路開発</li> </ul>
<p>キ 災害に強い、あるいは災害を受けない鉄道施設の復旧・整備について、広域的な観点に基づく公共交通システムの構築と併せて検討します。</p>	<p>公共交通システムの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通システムの早期復旧、強化</li> <li>・ ソーラーパネル機能をもたせる</li> </ul> <p>仮設住宅などの循環バスの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮設住宅や住宅に循環バスなどを導入し移動困難者への移手段を確保する</li> </ul> <p>三陸鉄道の代行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三陸鉄道が使用できないため、代行バスの予算、バス貸与の補助をしてほしい</li> </ul> <p>鉄道の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JR 大船渡線を釜石線につなげばもっと便利に</li> </ul>

【その他】	工事用道路の有効活用 ・ 工事用道路も緊急時には使えるようにしてほしい
<b>土地利用のあり方を検討のうえ見直します。</b>	
<b>ア</b> それぞれの被災地域の特性を考慮した土地利用計画を定めます。	被災箇所の土地利用 ・ 旧 JR 大船渡駅周囲は「運動公園」にしてしまう 新駅周辺に中枢機能集約 ・ 新しい駅周辺に中枢施設を集約 用途の柔軟な変更 ・ 用途区域の変更も柔軟に（例：農耕地の見直し）
<b>イ</b> 沿岸地域を中心とした住宅の高台移転や宅地のかさ上げなどに伴い、移転先地域なども含めた複数のエリアで土地利用のあり方を検討し、用途を定めます。	運動公園予定地の住宅地化 ・ 猪川の総合運動公園予定地を茶屋前に移転し、住宅地には
<b>ウ</b> 災害危険地域などについては、住民との合意形成のもと、住宅などの建築を制限します。	
【その他】	
<b>情報通信基盤の整備を進めます。</b>	
<b>ア</b> 災害時において、確実に情報収集・発信ができる環境を整備します。	ラジオ・防災無線等の充実・見直し ・ FMラジオ、防災無線受信機を全住民に配布 ・ 今出山の送信所に発電、蓄電設備を ・ 電話・携帯無線の拡充 ・ 従来の防災無線や放送のあり方の抜本的見直し 緊急用情報通信網の整備 ・ 市街地と公民館の間を結ぶような緊急用情報通信を確保 ・ 沿岸沿いのNTT通信網を内陸 沿岸間も ・ 緊急地震速報やJ-ALERTと連携（防災無線） ・ 市独自の通信網の必要性、市からの一方的な連絡だけでなく相互にできるもの 電源の確保 ・ 発電・蓄電機能をもたせる ・ 各施設にソーラーパネルの複数設置（信号機や放送設備）
【その他】	
~ 以外の意見	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <b>復興計画全般</b>          復興計画のあり方          ・ 既存の概念とは異なった新概念での復興          ・ 100年後の大船渡の姿を示す必要性          ・ 子子孫孫に伝える義務がある、人命を考えたまちづくりが必要          土地利用計画検討の進め方          ・ 模型を使ったワークショップを          ・ 計画完成前のワークショップを          ・ 土地所有権に関わらず、復興方針図等に計画道路を具体的に明示（国や県同様）          ・ 被災地域を明確化し、視覚で認識する          高齢者への配慮          ・ 高齢者を考えた政策          国・県への要望・予算確保          ・ 小さなことでもとりあえず国や県に要求を          ・ 国の補正予算待つのではなく、後からお金がついてくるようになれば 現地からの発信       </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <b>市民生活関連</b>          コミュニティ単位での移転          ・ 旧コミュニティ単位での移転          二重ローン対策          ・ 二重ローンの回収、ファンドの買い取りを       </div>

#### 産業・経済関連

##### 水質改善の考え方

- ・ 水質改善は河川や森林（山）から行う
- 仮設住宅関連の商業施設の確保
- ・ 仮設住宅周囲に商店を早期に設置（交通手段に困る人のため）
- ・ 移動型商店を増やす
- 瓦礫処理産業の導入
- ・ 瓦礫処理産業を導入させ雇用促進や経済開発
- ・ 瓦礫の早期撤去、スピードアップ、景観形成

#### 防災まちづくり関連

##### 防災拠点施設設置場所の見直し

- ・ 消防署、防災センターが盛にあるのは場所がふさわしくない、高い所にあるべき、海が見える場所へ、合併特例債でできないか
- ・ リスク分散を考える
- 非常時のライフライン・エネルギー源の確保
- ・ 電気、ガス、水道、燃料の確保調達の仕組みづくり
- ・ ライフライン用の共同溝開発（津波で被害を受けないように埋設）
- ・ 自家発電、蓄電設備を備えた施設の増設
- ・ 市で独自のエネルギー源を確保（例：石炭など）
- 構造・標示等における防災の工夫
- ・ 道路や建材に工夫を（透水性、耐震性）
- ・ 浸水高さを何十年後でも分かるように表示
- ・ 非常時の井戸を公民館などに
- ・ 内陸部の商店街店舗各自に防災機能を付帯させ、緊急時に活用
- 緊急時の移動困難者搬送方法の確立
- ・ 緊急時や平常時に高齢者や車椅子人の搬送方法を考える

防災まちづくり部会

骨子内容	事業メニューに関する意見
<p>今回の災害による教訓を生かし、新たな防災体制を整えます。</p>	
<p>ア 津波に対する防災体制を見直します。</p>	<p>情報伝達方法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報伝達方法の改善</li> <li>・ 津波注意報があってもわずかな潮位変化では、これまでの経験から「たいしたことない」という感覚があるため、避難行動に移らない</li> <li>・ 防災無線の放送に危機感・切迫感がない。強引な言い方で「逃げろ!」でよい</li> <li>・ 停電時の連絡機能として無線を充実</li> </ul> <p>連絡体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 陸と海の連絡体制の構築</li> </ul>
<p>イ 新たな住宅地造成などに関連して、土砂災害などに対する防災体制を見直します。</p>	
<p>ウ 防災施設の充実・強化を図りながらも、防災施設に偏らない防災体制を整えます。</p>	<p>防災施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災センターの機能強化</li> <li>・ 災害弱者を基本においた設備の充実が必要</li> <li>・ ロケーションを考える</li> <li>・ 多重防災にすべき</li> </ul> <p>高台への避難所設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高台に避難所を。一夜明かすための一次避難所、一月ほど滞在できる二次避難所（福祉センターのような施設）、備蓄、一月ほどもトイレ</li> </ul>
<p>エ 高齢者や障がい者など災害弱者に十分配慮した防災体制を整えます。</p>	<p>連絡体制・担当者の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡対応、担当者等の役割の構築</li> <li>・ 地域コミュニティの醸成</li> <li>・ 被災後、誰が、どこにいるか（高齢者の仮設住宅での一人暮らしなど）、一部の責任者だけでも知っておくべき。たまに顔を出して確認できる関係、共助</li> </ul>
<p>オ 建築物の構造を災害に強いものにするよう促します。</p>	<p>避難ビルの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海辺の住人が避難するためのシェルター（避難ビル）の設置</li> </ul>
<p>カ 高層の避難場所を確保するなど、沿岸部などの防災機能を強化します。</p>	<p>避難に関する標示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転手への連絡確保のため、電光掲示板を設置</li> </ul>
<p>【その他】</p>	<p>全体的な高台移転</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全部高台に移転すべき。土地を安くするなど移転しやすくする</li> </ul>
<p>防災教育や防災訓練を積極的に推進します。</p>	
<p>ア 今回の災害の記録を保存するとともに、津波に関する遺構やモニュメントを活用するなどして後世に伝えます。</p>	<p>次世代への継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代に伝えるシステムの構築</li> <li>・ 移入してくる住民への対応</li> <li>・ 外部から移入してくる住民に対するケア</li> </ul>
<p>イ 市民各層に対して防災に関する教育活動を実施します。</p>	<p>防災教育の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育の推進</li> <li>・ 時間が経てば恐怖や緊迫感が薄れて行く、早い段階で防災の教育も始めるべき</li> <li>・ 子供達が避難弱者を助けるなど自主的にできるように、子供達も参加させて活動を行う</li> <li>・ 実際の行動に結びつく行動レベルでの検討と、その後の検証と評価が必要</li> <li>・ 防災教育は小学校など教育機関だけに限った話ではない。企業がいかに従業員を守るかも検討されるべき</li> <li>・ 避難弱者に手を貸す、まだ逃げてない人を報告するといった、避難時の対処についての教育も</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おおかみ少年」とする思い込みを回避する情報システムの検討（慣れの回避）</li> <li>・ 自宅にいるときだけでなく、出勤時、買い物時の被災についても考えていくべき</li> <li>・ 津波に対する知識の蓄積</li> <li>・ 防波堤がなかった時代と防波堤のある今とでは防災意識がどうしても異なる。防波堤にたよらず自分の命は自分で守るという意識が必要</li> <li>・ 消防団が率先して逃げる。それによって、住民も危機感を感じ逃げる</li> </ul>
ウ 東日本大震災が発生した3月11日に、広く防災意識の高揚を図るための事業を実施します。	
エ 市内全域または地域ごとに防災訓練を実施します。	<p>地域特性を踏まえた防災の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域特性を重視した防災の取り組み</li> <li>・ もっと小さい集団での防災対策意識付け・危機感を伴う防災訓練</li> <li>・ 防災訓練には防災意識付けという面もある。今は安全だからやらなくても良いわけではない</li> <li>・ なぜ逃げなかったのか、なぜ失敗したのかを明らかにした上で、危機感を持った状態で訓練などを行う</li> <li>・ 被災・非被災地域の自主防災組織は、もっと具体的な取り組みを打ち出し、訓練が必要</li> <li>・ 防災訓練の徹底、学校だけでなく、地域、社会、企業レベル（職場）での実施</li> </ul>
【その他】	
地域コミュニティ機能の維持・強化を図ります。	
ア 自主防災組織の育成・強化を支援します。	<p>自主防災組織・体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織の強化</li> <li>・ 各地区で災害時要援護者の確認、自分のまわりの声かけする人の確認を行う</li> <li>・ 誰が何をやるのか、役割分担を明確にしておく</li> <li>・ 地域内の“弱者”の把握・誰が助けるのかということを決めておけば犠牲者は減っていたのではないか。消防・警察に任せきりにせず、隣近所で助け合うなど自分たちでできることは自分たちでやるべき</li> <li>・ 高齢者、一人暮らし者に対するサポート</li> </ul>
イ ボランティア組織の育成・強化を支援します。	
ウ 市民の自主的な地域づくり活動や拠点となる施設の整備などに対して支援します。	
【その他】	<p>災害時の防犯対策強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災後、治安が悪かった。外部の人間にあらゆる物を盗られた。皆被災したため、人手が足りず見回りでできない状態だった。警察は人命救助を最優先とし、一応パトカーは巡回していたが、十分ではなかった。有事の場合、治安のフォローが重要だと感じた。次の有事の場合に備えて、どう対応するかを検討していくべき</li> </ul>
ライフラインや交通・物流などの機能を強化します。	
ア 関係機関の協力のもと、重要施設などへの重点・優先投資を行いながら、これら機能の早期復旧体制を整えとともに、再生可能エネルギーの活用など、非常時の応急的な生活を支える方策について検討します。	
イ 災害に備えた物資の備蓄や調達方法を強化します。	

【その他】	
広域的な観点を重視した災害時の応援・サポート体制を整えます。	
ア 医療・福祉をはじめさまざまな分野において、市内外の多くの機関との連携による相互支援体制を確立します。	<p>自主防災組織間の連絡体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織同士の連絡体制を構築する</li> </ul>
イ 気仙2市1町の一層の連携推進をはじめ、三陸沿岸地域や岩手県内陸部の市町村など、自治体間の相互支援体制を強化します。	
ウ 災害時にすばやく対応できるボランティアネットワークを強化します。	<p>災害直後からのボランティア体制確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害直後の空白の時間を作らない対策</li> </ul>
～ 以外の意見	
【その他】	<p><b>復興計画全般</b></p> <p>津波規模の想定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これから、どのくらいの規模の津波を想定すればいいのかを学問的に検証して教えてほしい</li> </ul> <p><b>市民生活関連</b></p> <p>高台移転</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20、30年後の高台移転を検討</li> <li>高台移転に関しては、子や孫たちへの安全安心、生まれ育った土地への思い入れ、コミュニティ形成の問題、金銭関連等、それぞれ様々な思いがあるので、しっかりとした意識調査が必要</li> <li>高台移転を進める際には、土地利用規制、補助金制度、新たな建築基準といったことも決めていく必要がある</li> <li>住宅を全て山側に移転することは不可能。「今の土地に、手直ししながら住み続けたい」という市民の保護をしていくことが大切</li> <li>高台に移転したい人は4割いるので、補助金などの誘導策</li> </ul> <p>集落過疎化への懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三世帯が同居していた世帯などは、仮設住宅では一部屋では足りないため、世帯が分かれてしまう。若い世代は中心市街地などに移転していき、被災した地域に若者が残らないのでは（過疎化進行）</li> </ul> <p><b>産業・経済関連</b></p> <p><b>都市基盤関連</b></p> <p>避難道路・高台駐車スペースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車での避難を踏まえ、道路の拡幅、東西方向の道路整備（山へのアクセス）、高台での駐車スペースの確保</li> </ul> <p>標識等視覚に訴える施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車で逃げる際、窓を閉めていると外からの音声情報が入らないため、音声だけでなく視覚に訴えかけるものを設置</li> <li>道路の規制（道路標識など）について、国と県、市が連携して進めてほしい</li> </ul>